

# オーストラリア産のムートン直買い付け OEM商品の自社加工が最盛期に

国内屈指のムートン(羊の毛皮)製造メーカーの株式会社マスダ(宇陀市菟田野)は創業から61年が経つ。オーストラリア産の厳選したムートンを買い付け、全ての工程を自社で行うというこだわり。人気商品はベッドシーツ。材料の天然羊毛は、毛の内部に約60%の空気を含み吸湿力が高く、冬は温かく、夏は涼しい優れもの。代表取締役社長の舛田順一さん(55)は「ムートンの上に横になった時、毛細血管の流れを妨げないため、寝たきりの方でも床ずれが起こりません」と太鼓判。ムートンで快適な日常生活を家庭に送り続けている。

当れ寝介すカンく貢工仕ト

イクルの中、環境負荷の低減に配慮したことにより、同3（1991）年から介護用メディカルムーテンの製造開始にござ着けた。

そうしたことが実を結び、平成24（2012）年に日本エコレザー基準（JFS）認定取得。天然皮革であることのほか▼排水・廃棄物処理が適正に管理された工場で製造された革であること▼臭気・化学物質（ホルムアルデヒド・重金属・PCP・禁止アゴ染料・発がん性染料の使用制限）や染織摩擦堅ろう度に関する一定の基準を満たして

A photograph of a man with glasses and a dark polo shirt standing in a factory. He is positioned in front of several large, colorful stacks of what appears to be raw fiber or insulation material. The stacks are in shades of pink, yellow, and brown. The background shows industrial equipment and shelving. Overlaid on the top left is Japanese text: 'トーン直買い付け' (Direct purchase of tone) and '工が最盛期に' (During the peak period of the industry). On the top right, there is vertical text: '舛田順一さん' (Seiichi Matsudaira) and '代表取締役' (Representative Director).

創業は昭和36（1961）年5月。創業者の父・幹男さんが、平成29（2017）年に亡くなり、半年間の社長不在の時期を経て50歳で後を継いだ舛田さん。父親の創業時には、もともと鹿革加工により武道着から鎧兜（よろいがぶと）、入れ物（印伝）などに携わっていた。

「この地域は鹿革の加工拠点から派生して毛皮加工拠点になり、父も鹿革工場に務めて大阪の社長に声掛けされ、毛皮の加工を依頼されました。そこから派生してムートンの加工も依頼が来るようになり、設備がある程度備わるようになつたんです」と説明する。

は、1本1本がバネのようになっていて、ムートンの上に横になつた時、1平方ヤード当たり4～5千本の弾力性のある毛が点で支える。そのため体を浮かせているように、背中が何にも当たらない状態となり、毛細血管の血流を妨げないといふ。

「当時、介護用品は口コミで広がつていって、少ないながらも倍々で増えていった形です。介護用品は右肩上がりです」と舛田さんの表情が弾む。ただ、ムートンはクリーニングに手間がかかり、保険適用ではないところが泣きどころ。それでも、「間違いなく一番いいもの、患者さんには効果の

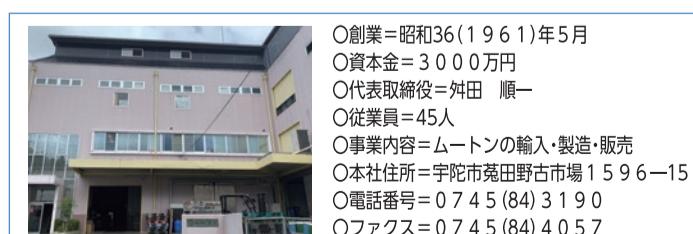
主商品の寝具、敷物用に  
ムートン年間10万枚（10万  
頭）を仕入れる。年間で8億  
円ほどの売り上げがある。そ  
のうちの65%は寝具。顧客の  
ブランド名で作っているOEM  
（90%）で大量の受注生産  
が基本だが、新型コロナの影  
響で大きなダメージを受け  
ている顧客も多かった。  
「うちも令和2（2020）

いる」と「が認定要件。」  
同29(2017)年、社名  
を「株式会社舛田」から「株  
式会社マスダ」に変更した  
「今、生産上で一番気を遣う  
ところは、やはり品質です  
ね。その中で一番大きいウエ  
ートを占めるのが原料、原  
皮。オーストラリアに39年前  
に初めて行って、それから毎  
年1～2回買い付けに必ず  
行きます」と話す。メリノ種  
の季節限定のスプリングラ  
ムスキン(春に生まれた子羊  
の原皮)を使用し、秋口に買  
付けてくる。

年の3月から影響を受けていたんですけど、8月まではもう悲惨でしたね。半年間で、前年の3分の1減でしたから。それが、9月に入りから、『巣ごもり需要』に上手いこと乗っていかかれたお得意先があつて。今までよりも良い睡眠がとれるようになつた感じで結構販売してもらつたことを機に急速にまた増えました』と話す結果、3年前以上に売り上げが回復。今は少し収まりつつ常に戻っているといつ。

は、昭和40（1965）年後  
に操業を開始したが、今  
は日本でマスダと日本ムー  
ンの2社。ムートン自体の  
加工生産をしている会社は  
マスダのみ。「設備的に投資  
がものすごくかかるので  
新しく事業を開始する」と  
うのは難しいです。うちど  
ムートンのこの事業をしな  
くなつたら、日本という國

からムートンの製造拠点  
いうのは完全になくなつ  
しまつのは」とも。  
現状は、説明しながら  
「フェイストーフェイス」の  
り方。奈良県では、硬式用  
高校野球やプロ野球など  
グローブの手首の裏側は全  
ムートン。「あれで手首を  
護するし、汗もここで吸収  
ます。多分、日本の高校野球  
プロ野球などで使っている  
ローブの半分以上は、うち  
ムートンを使っています」と  
舛田さん。



- 創業＝昭和36(1961)年5月
- 資本金＝3000万円
- 代表取締役＝舛田 順一
- 従業員＝45人
- 事業内容＝ムートンの輸入・製造・販売
- 本社住所＝宇陀市菟野町古市場1596-15
- 電話番号＝0745(84)3190
- ファクス＝0745(84)4057

<https://www.mdm.mouton.co.in>